

四国山地におけるツキノワグマ生息調査の結果について ～「はしっこプロジェクト 2024」～

令和7年 6 月 12 日

四国森林管理局

中国四国地方環境事務所

(認特)四国自然史科学研究センター

剣山山系及びその周辺地域のみには生息する四国のツキノワグマは、2017(平成 29)年時点で 16 頭から 24 頭と推定されており(鶴野ら 2019)、環境省レッドリスト 2020 では「絶滅のおそれのある地域個体群」とされています。

四国森林管理局、中国四国地方環境事務所及び(認特)四国自然史科学研究センターでは、ツキノワグマの生息状況を把握するための調査「はしっこプロジェクト」を、2014(平成 26)年度から連携して実施しています(中国四国地方環境事務所は 2015(平成 27)年度から参画)。

2024(令和6)年度の調査結果は下記のとおりでしたので、お知らせします。

1 調査概要

調査期間:2024(令和6)年4月から 12 月まで

調査方法:無人撮影装置(センサーカメラ)による調査

34 箇所 83 地点に無人撮影装置を設置

四国森林管理局:6箇所 19 地点

中国四国地方環境事務所:12 箇所 24 地点

四国自然史科学研究センター:15 箇所 36 地点

ニッポン高度紙工業株式会社:1箇所4地点

2 調査結果(別添1)

2024(令和6)年度に「はしっこプロジェクト」でセンサーカメラを設置した 34 箇所のうち、19 箇所(徳島県 12 箇所、高知県7箇所)においてツキノワグマが確認されました。調査によって最低 26 頭が識別され、親子が 4 組確認されました。

また、生息が確認された 19 箇所のうち、15 箇所はこれまで生息が確認されている地域(分布中心地域)で、残る4箇所は 2017(平成 29)年以降に生息が確認された、生息域の辺縁地域での確認となりました。

今回、識別された 26 頭全てが分布中心地域で確認されており、依然として四国のツキノワグマは剣山山系及びその周辺の限定的な地域が主な分布域と推察されます。また、絶滅の危険性が高い個体群では、繁殖が安定して行われているかということが重要な情報となります。今回、複数の親子が確認さ

れており、個体数が少ない中でも繁殖が行われていることが確認できました

今後とも、四国のツキノワグマの生息状況を適切に把握するために、今年度に生息が確認された辺縁地域を含め、各機関の連携により引き続き生息状況を調査し、恒常的な分布域であるか確認していきます。

3 今後の予定

今回の調査結果を踏まえて、2025(令和7)年度も調査を継続することとしています。

調査箇所写真(別添2)

お問合せ先

四国森林管理局

計画課 福長、稲澤

TEL:088-821-2100

中国四国地方環境事務所

四国事務所 金丸、福田

TEL:087-811-6227

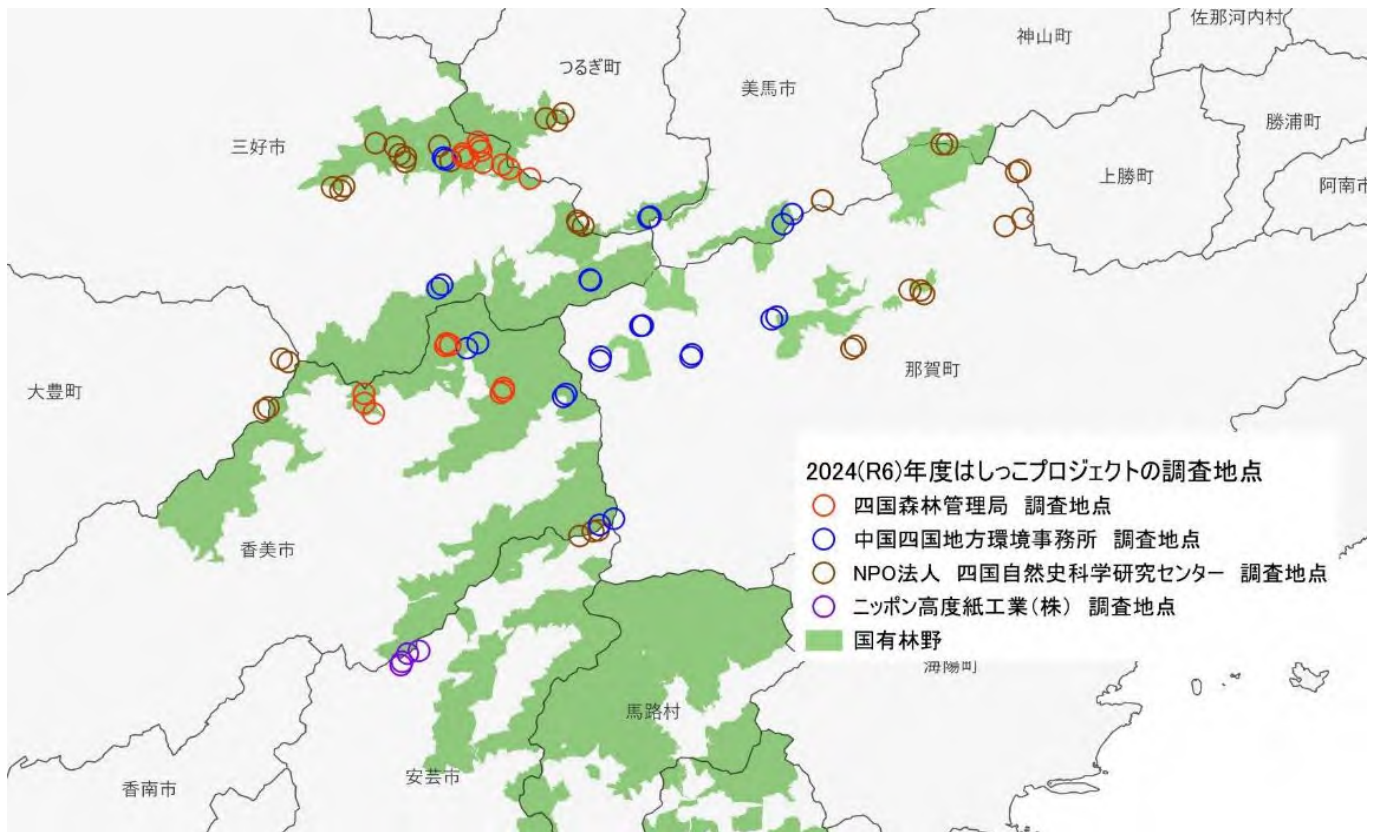
(認特)四国自然史科学研究センター

山田、安藤

TEL:0889-40-0840

○ 剣山系周辺（高知県と徳島県）の国有林位置図

別添 1



○ 今回の調査で撮影された動物

名 称	撮影箇所数	名 称	撮影箇所数
ツキノワグマ	19	ニホンザル	30
アナグマ	34	ニホンジカ	34
イノシシ	33	ニホンノウサギ	13
ニホンテン	33	ニホンモモンガ	3
アカギツネ	20	ニホンリス	18
タヌキ	32	ハクビシン	23
ニホンカモシカ	27	ムササビ	0
ネズミ科の一種	15	ヤマネ	5
イタチ属の一種	13	コウモリ目の一種	12

※ 箇所数は、全調査箇所（34箇所）のうち、対象となる動物が1回以上撮影された調査箇所の数。



(1) ツキノワグマ 徳島県三好市の国有林内

四国森林管理局撮影



(2) ツキノワグマの親子 徳島県美馬市の国有林内

中国四国地方環境事務所撮影



(3) ツキノワグマの親子 徳島県那賀郡那賀町の民有林内

中国四国地方環境事務所撮影



(4) ツキノワグマの親子 徳島県名西郡神山町の国有林内
四国自然史科学研究センター撮影



(5) ツキノワグマ 徳島県美馬市の民有林内
四国自然史科学研究センター撮影



(6) ニホンカモシカ 徳島県三好市の国有林内
四国森林管理局撮影



(7) ニホンカモシカ 高知県安芸市の民有林内

ニッポン高度紙工業（株）撮影